

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切に他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 スマートスクール推進事業により、HR教室に電子黒板付きプロジェクタ、教師用 iPad 等が配備され、一定のICT環境が整った。ICTプロジェクトチームが牽引役となり、ICTを活用した授業展開等にも各教科で取り組んでいる。また、Classi の導入により、クラウドサービスを通じた生徒とのやり取りも可能になっている。このような取組により、学習内容に対する生徒の興味関心を喚起するという点においては一定の成果が上がっていると考えられる。今後は、さらにICT活用を推進し、生徒の主体的な学びを引き出す工夫や、自主的な学習時間の増加に繋がるような工夫が求められる。</p> <p>2 部活動や行事等の生徒の自主的な活動において、学校全体としての盛り上がりには欠け、リーダーとなる人材が不足している。昨年度から始めた部活動の活性化の取組をさらに継続し加入率・定着率を高めること、学校行事に主体的に取り組ませるための行事内容の見直し等が求められる。</p> <p>3 生徒指導面では一定の落ち着いた状況が見られるが、SNSをめぐる人間関係上のトラブルや、交通安全、環境美化等に関する課題については、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>4 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科が連携し個々の生徒に対して丁寧な指導を行ったが、年々中堅私立大学への合格が厳しい状況となっており、決定率100%には至っていない。</p> <p>5 広報活動については、説明会の実施、ホームページの更新、広報誌の定期的な発行及び中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信したが、志願者の増加には至らなかった。今後は、さらに地域の中学校等との連携を深め、本校の良さを積極的にアピールしていく必要がある。</p>	<p>1 生徒の主体的な学びによる学力の向上と希望進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用等により授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の学習意欲を高める。また、Classi等のツールを教職員も積極的に活用することにより、生徒の主体的な自学自習時間を増加させ、希望進路実現に向けた学力向上を図る。 <p>2 豊かな人間性と規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。 SDGsをテーマにした探究活動等に取り組み、ユネスコスクールとしての本校の特色を外部に積極的に発信していく。 生徒にけじめのある学校生活を過させることを通じて、規範意識の向上と公德心の育成をめざし、全教職員で足並みを揃えて指導にあたる。 <p>3 広報活動等による積極的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校HPや「西乙だより」の内容をさらに充実させるとともに、様々なツールを積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策(取組計画)	評価	成果と課題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○教職員全体が課題改善に向けた連携と調整を図る。 ○ICTの活用により、情報の共有化と業務の効率化を推進する。	B	・Slack や Classi の導入により、教職員間の情報共有が容易かつ迅速になった一方、理解度や利用頻度に差がある。業務の効率化は進みつつあるが、引き続き校内体制の整備とICTへの理解が必要である。
学習指導と進路指導	◇授業改善	○各教科及びICT教育推進プロジェクト会議と連携を図り、Classiのさらなる活用をすすめるよう、活用例を教職員間で共有して授業改善を推進する。公開授業週間の研究授業ではICTの活用に向けた授業改善を促す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により、生徒の興味関心を高める授業改善が進められている。 「Classi」を活用し、学習時間調査やポートフォリオの作成等に取り組みさせたが、日常的な活用には至っていない。さらに生徒の利用を促進していくことが求められる。 ユネスコスクールとして、今後は、「SDGs」をテーマに探究的な学習の時間等に取り組むなど、活動を活性化させたい。 コロナ禍の影響で、留学も含め多くの事業が中止となる中、YORO イングリッシュキャンプなどの新たな取組を展開し、本校の特色である国際教育を推進した。 第3学年は大学入試制度の度重なる変更、さらにはコロナ禍の影響を受け厳しい状況に置かれたにもかかわらず、進路指導部、学年部を中心とする指導のもと、粘り強く取り組み、健闘した。 次年度も、土曜講習、長期休業中の講習、学習合宿等を通じ、いかに実践力向上に結びつけていくかが課題である。 自主的に読書をする、読書ができる生徒が減少している。図書館でのイベント等の充実は図れたが、来館者は増えても貸出にはなかなかつながらない状況がある。HRや授業を活用して、読書を課したりする方策なども必要である。
	◇学力の向上	○華道体験、茶道体験、サントリービール工場見学等の体験活動の他、総合的な探究の時間の先行実施における取組が充実するよう分掌・各教科とも連携し、主体的な学びを推進させる。	B	
	◇国際教育の推進	○国際交流が縮小しても、異文化理解や伝統文化理解を深めるなど、ユネスコスクールとしての取組を積極的に推進していく。	A	
	◇希望進路の実現	○3年7限講習、土曜講習、長期休業中の講習等を通じて、進路実現に向けて実力の向上を目指す。また、3年生の部活動引退後の自学自習の定着を目指す。土曜講習では、ICTによる学習支援の活用も計画する。 ○オープンキャンパス、キャリアプランガイダンス、小論文指導、模擬面接、高大連携等を通じて、生徒が具体的な進路目標に向けて、行動できるように支援する。その活動をポートフォリオ等に記録し、振り返りの支援を行う。 ○進路指導部と学年部及び各教科との連携を密にし、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底し、私立大学合格者数の増加及び進路決定率100%の実現を目指す。共通テスト及び高大接続改革への対応を行う。	B	
	◇図書視聴覚教育の充実	○新着本等の紹介やディスプレイを工夫し、生徒の読書意欲の向上と図書館利用の促進を図る。 ○図書委員会の活性化を図り、生徒が主体的に活動を進めるように支援する。 ○他分掌や各教科との連携を密に図り、視聴覚教室及び機器の利用も含め、教科学習や特別活動などの教育活動に資する図書館経営を目指す。	B	
生徒指導と特別活動	◇規範意識の醸成	○スマートフォン、SNSの適正利用に向けた指導(有効で持続的な方法の検討) ・これまでのスマートフォン指導の見直しと併せて、新たな取組を1つ以上導入する。	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSの利用に関わるトラブルは依然として発生しているが、スマートフォン使用の見直しを生徒会が主体的に取り組んだ。 コロナ禍の影響で、年度当初の部活動活性化に向けた行事等が実施できなかったこともあり、加入率や定着率を高められなかった。 本年度は特に自転車の通学マナーが低下した。警察や行政、PTAの協力を仰ぎながら、指導を継続する必要がある。 コロナ禍の影響で、日程や講師の変更等を必要とする人権学習であったが、概ね計画通り行うことができた。
	◇特別活動や部活動の充実	○部活動の活性化(加入率・定着率の向上及びリーダー育成をねらった取組の充実) ・令和元年度より導入した取組のさらなる充実を図る。	B	
	◇交通安全指導の推進	○通学安全の徹底指導(有効で持続的な方法の検討) ・これまでの通学安全指導の見直しと併せて、新たな取組を1つ以上導入する。	B	
	◇人権教育の推進	○人権学習を通じて生徒の人権意識を高めるとともに、あらゆる教育活動において人権感覚を養う指導を行う。	B	
健康安全	◇環境・美化の推進	○学習環境を整えるために、日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行い、保健委員会を中心としたゴミの分別やトイレの二足制の徹底等、環境美化活動や広報活動を行うことで、学校全体の意識向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルや空き缶用のゴミ箱をHR教室から撤去するなどの対策をとるものの、その他の場所での分別が不十分となった。 保健部と学年部が密に連携し、個々の生徒への対応を丁寧に行い、教育相談会議、特別支援教育会議等を通じて、課題のある生徒の理解や支援に取り組み、適切な対応ができた。 学校医・関係職員と連携して健康管理を行い、新型コロナウイルス感染症に代表される感染症等の正しい予防の知識と自主的な対策に向けての行動ができるように、日頃から安全衛生の指導の徹底が図れた。
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○健康診断や宿泊を伴う行事の際には保健調査を行い、健康状況を把握するとともに、学校医・関係職員と連携して健康管理を行う。新型コロナウイルス感染症に代表される感染症等の正しい予防の知識と自主的な対策に向けての行動ができるように、日頃から安全衛生の指導の徹底を図る。 ○多様な状況の生徒が増えてきているので、関係教員や他分掌と情報共有しながら丁寧な指導を行う。生徒の実態により、スクールカウンセラー及び地域の専門機関(医療・特別支援センター・児童相談所等)との連携により、学校における教育相談及び特別支援教育を充実させる。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策（○取組計画・◇評価指標）	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	◇広報活動の充実	○学校説明会・広報誌にしおつだより等の充実 ・学校説明会において、積極的に「ICT を活用する」とともに、中学生や保護者の「知りたい情報や本校の魅力・特色などをわかりやすく発信」する。また、説明会の参加者を昨年より「100 名増加」させる。（昨年度 103 名減） ・広報誌にしおつだよりを「約月 1 回発行」し、中学生などに学校の取組や情報、生徒の活躍、本校の魅力を発信する。 ○志願者増加 ・志願者増加に向けて、こまめに中学校との連携を図り「11 月の志願者数 200 名（昨年 132）、最終志願者を昨年より、のべ合計 50 名増加」させる。（目標 前期 170 中期 150） ○WEB 等による広報の充実 ・ホームページをより見やすく使いやすいものに「リニューアル」して、在校生や保護者の活用も促すような工夫をしながら、学校情報や本校の魅力を、よりわかりやすく外部に発信する。 ・「全部活動、学期に 1 回は HP 更新」するとともに、ホームページ「全体の更新を平均週 5 回」を目指し、ホームページ閲覧者の増加に努める。 ・様々なツールの積極的な活用を模索し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。	B	・広報部を中心として、かなりの労力をかけて広報活動を行っているが、志願者の増加になかなかつながらない。紙ベースの配布物は増加したが、出身中学が地元だけにとどまらない現状からすると、配布のスリム化を図るなど、戦略の見直しが必要かと思われる。私学には有利な条件が整いすぎている現状に対抗するのは困難であるが、中学生にもわかりやすい宣伝を続けることも必要かと思われる。 ・ICT を活用した取組(学校紹介 YouTube、公式インスタグラム、iPad の活用など)を充実させることができた。 ・コロナ渦の影響でホームページ更新数減、そして昨年度よりも厳しい志願者数となった。来年度に向け、総括を行い、志願者増に向け、しっかり取り組みたい。 ・在校生の学校生活に対する充実感が志願者増加にも大きく影響すると考えられることから、対外的なアピールだけで無く、現状の学校の見直しが急務である。
	◇安心・安全な学校環境づくり	○生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、危機管理を共有し、緊急時には迅速かつ適切な対応ができるよう努める。 ○ICT 教育における生徒のタブレットや classi 等の利用促進を図るべく、ICT プロジェクトチームと連携し環境整備や予算の適切な執行を行う。	B	・学習環境としては、一定の落ち着いた雰囲気になりつつある一方で、スマホや身だしなみに関わる軽微な校則違反を繰り返す生徒がいる。また、SNS に関係するトラブルも多い。安心・安全な学校環境づくりのためには、引き続き全教職員で組織的に指導していくことが必要である。
	◇学年の取組（3年）	○規範意識の育成・・・ルールを理解し遵守し、質の高い集団生活を送らせる。 ・時間を守り、服装や身だしなみを整える指導をする。また、携帯電話・スマートフォンの利用上のルールを守らせ、充実した学校生活を送れるように支援する。 ○進路実現に向けての取組・・・日々の授業を大切に、講習・模擬試験に積極的に取り組み、それぞれの進路希望に対応した学力をつけることを支援する。また、「学習する雰囲気」の維持に向けて指導をする。 ○部活動や学校行事に積極的に取り組み、最終学年として活気ある集団づくりをするとともに、リーダーづくりも含め、目的を持った自主的な活動を支援をする。	B	・3年間通して、ほぼこの3本の柱で指導をしてきたが、徐々に指導が浸透した感がある。3年になって、ようやく学習に力を入れ、教科や生活の指導をまじめに受け止め、努力する生徒も多くなった。安易に指定校に流されず、国公立大を目指す生徒、指定校決定後も講習に参加し、共通テストを受験した生徒の存在もよい影響を与えた。 ・コロナ禍の影響で、部活動の最後の試合がなくなるなどもあったが、その思いも含めて、西乙祭に熱心に取り組む者も多く、各クラスのリーダー達が努力した。
	◇学年の取組（2年）	○自分自身の言葉で考えを伝え、行動できる。学びの姿勢づくり ・ICT を積極的に活用し、学習習慣を身につけさせる。 ・Classi を積極的に活用し、学習時間を把握、学習指導に反映させる。 ○集団生活上の規則やマナーの指導の重視 ・頭髪、服装、あいさつ、時間管理、掃除などの領域で規範意識を高める。 ・学年集会での全体指導を含め、学年で統一した指導を徹底する。 ○部活動、学校行事への参加を促し、互いを尊重する集団づくり ・部活動への積極的な加入の促し、行事毎の取組を充実させる。 ・未加入生徒への加入の促しを面談等で図る。	B	・自習室を利用する生徒が増えており、その生徒を中心に多くの生徒が成績を伸ばしている。3年生に向け、自発的に勉強に取り組む生徒を増やすことが今後の課題である。 ・部活動に参加する生徒数は昨年と変わらず多くはないが、参加している生徒は日々練習等に励み、顕著な成果を出している。3年生の最後までやり切ることができるようさらにサポートしていく。 ・西乙祭では例年と違う形で実施することになったが、動画の作成に各クラスともに工夫を凝らし、時間の限り取り組むことができた。
	◇学年の取組（1年）	○人生の目標や職業観、進学意識の形成 ・夢を持って次のステージへ進学できるよう指導する。 ○集団生活上の規則やマナーの指導の重視 ・頭髪・服装、あいさつ、時間厳守、掃除などの領域で規範意識を高める。 ○学習習慣の確立 ・「授業を大切に」「部活動に入る」「家庭学習の時間を確保する」「提出物を期限までに出す」などの指導を徹底する。	B	・朝学習を週3回（国語・数学・英語）、SHR の時間を活用して行い、1限目の授業に向かう準備時間に充て、概ね集中して取り組むことができた。 ・部活動に参加する生徒数は例年と変わらず多くはないが、参加している生徒は日々練習等に励んでいる。当初は、一定数の加入率であったが、2学期後半や年が明けると各クラブで退部者が増えた。 ・西乙祭はコロナ感染対策を徹底する中、例年と違う形で実施すること

学校関係者評価委員会による評価	・魅力ある学校、授業づくりを目指すため、環境整備（教職員の研鑽・研修、施設設備の充実等）を図り、国際教育を柱とする特色化を推進すべきである。 また、志願者増加を目指し、特色を中学生にアピールしていく必要がある。 ・とりわけICT環境について、スマートスクール事業における取組が進められているところではあるが、より一層、整備・充実を図り、利活用の推進に努める必要がある。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	・コースの改編にあわせて、国際教育を柱とする特色化の推進を図る。 ・特色化の推進に向けては、本校におけるこれまでの教育活動全般（学校行事・教育課程・学校体制等）について校内での熟議を図り、具体的方策につなげる。 ・総合的な探究の時間等を活用し、ユネスコスクール、グローバルネットワーク校としての取組を充実させ、本校の特色を積極的にアピールしていく。
---------------	--